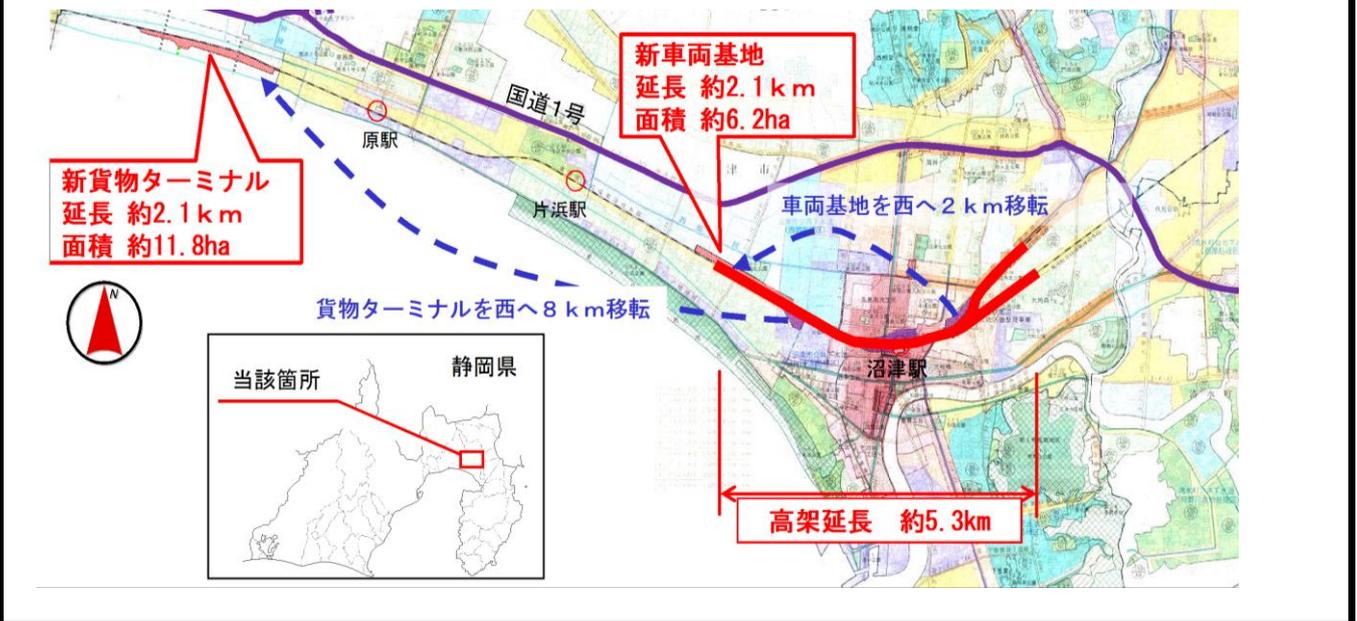


## 再評価結果（平成31年度事業継続箇所）

担 当 課：都市局街路交通施設課  
担当課長名：本田 武志

事業名	JR 東海道本線・御殿場線（沼津駅付近）		事業区分	連続立体交差	事業主体	静岡県 沼津市
起終点	静岡県沼津市大岡～静岡県沼津市桃里	延長	JR東海道本線：4.1km JR 御殿場線：1.8km			
事業概要						
沼津駅を含む JR 東海道本線及び JR 御殿場線を高架化し、13 箇所の踏切の除却、幹線道路 8 路線の立体交差化を行う。						
平成 15 年度事業化	平成 15 年度都市計画決定	平成 16 年度用地着手				
全体事業費	787 億円	事業進捗率	4.8%	供用済延長	-	km
踏切交通遮断量	181,853 台時/日					
費用対効果 分析結果	B/C	1.2	総費用	(事業全体) 801.94 億円	総便益	(残事業)/ (事業全体) / 998.93 億円
	(事業全体) 1.2 (残事業)		事業費：805.84 億円 維持管理費：1.07 億円 用地残存価値：-4.97 億円	移動時間短縮便益 / 920.71 億円 走行経費減少便益： / 53.27 億円 交通事故減少便益： / 24.96 億円	基準年	平成 28 年
感度分析の結果						
(事業全体) 交通量	: B/C= 1.1 ~ 1.4 (交通量 ±10%)		(残事業) 交通量	: B/C= ~ (交通量 ±10%)		
事業費	: B/C= 1.1 ~ 1.4 (事業費 ±10%)		事業費	: B/C= ~ (事業費 ±10%)		
事業期間	: B/C= 1.1 ~ 1.4 (事業期間 ±10%)		事業期間	: B/C= ~ (事業期間 ±20%)		
事業の効果等						
踏切に起因する渋滞や事故の解消、鉄道跡地や高架下の活用による魅力的な空間づくり等						
関係する地方公共団体等の意見						
静岡県東部地域の拠点都市として発展していくためには、魅力と活力にあふれ、にぎわいに満ちたまちづくりを進めていく必要があり、そのためには、鉄道高架事業を初めとした沼津駅周辺総合整備事業の推進が極めて重要である。						
事業評価監視委員会の意見						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業期間が長期にわたることから、事業期間中においても踏切遮断時間の短縮による交通の円滑化や、防災力向上などの効果が順次発現されるよう計画的な整備に努められたい。</li> <li>・また、事業の実施に際しては、引き続き、沼津市との連携により事業の推進体制を確保するとともに、地域住民にも丁寧に説明しつつ、事業関連地域のまちづくりが円滑に進むよう努められたい。</li> </ul>						
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等						
沼津駅周辺総合整備事業により、駅周辺では、平成 26 年 7 月に東部初のコンベンションセンター「プラサヴェルデ」がオープンし、土地区画整理事業も一部区域が完了するなど、新しい街並みが形成されつつある。						
事業の進捗状況、残事業の内容等						
新貨物ターミナルの用地取得率は、86.7%（平成 31 年 2 月末時点）となり、残る地権者との契約締結に向け、事業を展開している。また、用地取得後は、速やかに工事に着手できるように、鉄道事業者からも全面的な協力を得て、必要な協議や設計等を進めている。						
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等						
新貨物ターミナルの用地取得にあたり、一部の地権者の同意が得られていない。						
施設の構造や工法の変更等						
鉄道事業者との協議や設計の中で、新技術新工法の活用、施工工程の見直しなどによるコスト縮減を検討している。						
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。					

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。  
※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。